総トン数で世界第2位となる中国海軍

漢和防務評論 20150805 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国経済の減速による株価急落や天津の化学工場爆発事故処理を見ると、政府要人の腐敗や共産党員の腐敗墮落の報道から、あり得る話であると考え、中国の将来は暗いと考えてしまいますが、一方で中国は海軍艦船の急激な増産を行っています。

KDRは、すでに総トン数で世界第2位になったと述べ、将来は、4乃至5個空母艦隊を建設し、「一带一路」政策の後ろ盾にするつもりであると述べています。

今回のKDRの記事は、中国海軍の現在の姿をもとにして書かれた記事であり、中国の経済規模が、将来米国並みになることを前提にしています。

国の発展は、経済規模だけで決まるわけではないので、中国の統治機構の後進性が当然足を引っ張ることになると私は推測します。

平可夫

中国は、7000トン以上の水上艦を史上空前の速度で建造している。大連及び上海で同時に建造を開始し艤装中の052D型ミサイル駆逐艦(DDG)は、2015年時点で、1+6艘である。052Dにはそのほかすでに引き渡された2艘(艦番号172及び173)と現在海上試験中の2艘がある。2010年からわずか5年間に、合計11艘の052Dが就役又は建造中ということになる。また大連造船所はさらに1艘の052Dを建造する計画がある。このように登場する052Dの数は12艘となり合計トン数は84000トンに達する。

052C型ミサイル駆逐艦はすでに6艘が2003年から就役しており、4艘は東海艦隊に、2艘は南海艦隊に配属されている。合計総トン数は38400トンになる。この2種類(052C及び052D)のミサイル駆逐艦の総トン数は合計122400トンになる。しかも艦齢がすべて10年以内であり、052C/Dの総数は18艘に達する。このように大規模かつ建造速度が速く、合計トン数が多い水上艦の建造例は、戦前の日本海軍に見られる。今後の中国海軍艦船建造計画は、如何なる目的で、如何なる規模か？全く公表されていない。

このほか東海艦隊にロシア製956E/EM型ミサイル駆逐艦(6700トン)が4艘就役している。トン数は合計110800トンである。

「遼寧」号空母は満載排水量が70000トンである。また現在大連で国産空母第一号が建造中である。この空母も70000トン級であることから空母の合計トン数は

140000 トンになる。

ここ 10 年来、中国海軍は 22 艘の 054A 型ミサイル護衛艦を建造した。満載排水量は 4200 トンである。合計トン数は 92400 トンになる。054A は引き続き建造中である。2 艘の 054 は、単艦の排水量が 3900 トンなので、合計トン数は 7800 トンである。上述の水上艦の合計トン数だけで 473400 トンになる。これは、日本、英国、フランス、インド、ロシア海軍をはるかに上回り、中国は、大型水上艦艇の総トン数で米国海軍に次ぐ。イージス艦 (DDG) の総数では、米国海軍が絶対的に優勢である。アーレイバーク級 DDG の総数は、62 艘に達する。しかし米国のイージス艦は 1989 年から建造が開始され、現在まで 26 年かかってこの数に到達している。

中国海軍のイージス艦は、10 年も経たずに 18 艘になっている。これらのことから、中国海軍は、一旦需要があれば、2025 年から 2030 年の間に、7000 トン以上の大型水上艦を 40 艘或いはそれ以上保有する可能性がある。

周知の通り、052D 以降の中国海軍水上艦は、ますます大型化し、万トン級の 055DDG に向かって進展している。KDR の予想が正しければ、2 年以内に、055 の建造が始まるであろう。

これらの動向から、中国海軍が海上覇権を目指していることは明白だ。すでに第一、第二列島線内での船団護衛が出来るレベルでは満足せず、「一带一路」が中国海軍の新たな勢力拡大目標であり、全世界を包含するものである。したがって今後建設される中国海軍は、全世界に進出する海軍を目指す。

052C/D 及び 054A の現在の建造速度から、将来中国海軍が建設する空母艦隊の規模が推測できる。すなわち、「2 艘の国産空母と 1 艘の訓練用空母」レベルには満足しない。1 個空母艦隊に、4 艘の”イージス”級ミサイル駆逐艦、及び 4 乃至 6 艘の 054A/B ミサイル護衛艦を配備することを前提とすれば、現段階では、中国海軍は少なくとも 4 乃至 5 個空母艦隊の建設を構想していることになる。

052D の配備を見ると、南海艦隊に集中している。第 9 駆逐艦支隊は最先進装備の 052D を 2 艘装備している可能性がある。すでに舷側に塗装された艦番号 172 乃至 175 を見ると、第一段階の 4 艘の 052D は南海艦隊に配備されると思われる。したがって理論的に考えれば、長期的に見て、南海艦隊には 2 艘の国産空母が配備される可能性がある。

中国がこのように巨大な海軍戦力を擁すれば、第一段階 2030 年の中国海軍の目標は、日本及び台湾との衝突、及び南シナ海での海上衝突において、米国海軍が南シナ海及び東シナ海に進出するのを徹底阻止することにあるのは明らかである。ここでは第二砲兵による米空母艦隊攻撃能力は考慮に入れていない。

2030 年になって一旦 4 個以上の空母艦隊が完成すると、中国海軍は第二列島線或いはインド洋で米国海軍と対峙する可能性が出てくる。たとえ米国空母艦隊のイージス艦の数が中国よりも多かろうとも、また艦艇の技術水準が中国海軍艦艇よりも

高かろうとも、米国は、中国、ロシア及びイラン海軍の挑戦に同時に対処することは困難だ。

注意すべきことは次の通り：

過去 10 年の実績として、江南造船所一か所だけで 18 艘に近い 052C/D ミサイル駆逐艦を建造した。大連造船所は補助的に 2 艘建造を開始しただけである。このことから中国造船工業の巨大な軍事的潜在力を見ることが出来る。米国アーレイバーク級 DDG は、過去 26 年間に、2 つの造船所が等分方式で建造したものである。一旦需要があれば、外高橋、渤海造船所も 7000 トン以上の水上艦を建造する能力がある。

日本経済は停滞し、政府の財政予算は不足している。日本は、海上での軍備競争で中国に数で勝る力はない。日本は、今後 10 年間、万トン級の水上艦を 20 艘以上建造できる財力があるようには見えない。現在、海上自衛隊は 6 艘のイージス級ミサイル駆逐艦があるだけだ。建造中の 28000 トン級「いずも」型ヘリ空母は 2 艘だけだ。

中国は、2015 年に、江南造船所の新工場（長興島）だけで、同時に 6 艘の 052D の建造、艤装に取り掛かっている。このことは、2 つの大問題が基本的に解決したことを示している。

すなわち

1. 製品の品質が安定した。新工場に移転した当初、中国海軍は建造した 052C の品質に不満があった。現在の造船技術者、専門家たちは熟練したはずである。
2. 今後 1 乃至 2 年以内に、中国の 3 つの艦隊（北、東、南）に現代化した 052D が就役すると、教育レベルの高い水兵が必要になる。中国の海軍軍人の教育、訓練は 10 年前に比べ、優れた指導的人材を迅速に提供できるようになっている。

次に、海軍の戦闘力を述べる際に海軍航空部隊に言及せざるを得ない。ここでは陸上基地の海軍航空戦闘機部隊の戦力は考慮に入れない。

遠海作戦に際し、現在、艦載の固定翼戦闘機を有する国は、米国、中国、ロシア、フランス、インド（ハリヤーを除く）だけである。ただ 1 艘の訓練空母だけしか保有していなくとも、24 機の J-15 搭載で計算すると、中国海軍艦載機部隊の作戦能力は、米国、フランスに次いで、世界第 3 位になる。ロシア海軍は、SU-33 が退役し、MIG-29K は交代時期にある。インド海軍は MIG-29K が就役したばかりで実験レベルであるが中国の水準に接近しつつある。しかし現在米国を除けば、同時に 3 艘以上の大型空母を保有している国はない。また速やかな建造を計画している国もない。したがって、一旦、大連の空母が就役すると、中国海軍の固定翼艦載機の数は世界第 2 位となる。

以上